

週

三年 11
 筆順 月 月 周 週
 オン シユウ
 クン

成り立ち



「行きとどく」いみから「行きわたる」↓「めぐる」
 いみをあらわすようになった「周」と、道をすすんで行くことをあらわす「辵」とをくみあわせて作った字です。「めぐって行く」「ぐるぐるとまわる」ことをあらわした字です。

今は、「七日で「ひとまわり」する、月曜日から日曜日までの七日間」のことをあらわす字として用いられるようになりました。
 七日間でひとまわりする期間の名前です。

使い方

▽カレンダーは、日曜日が初めて出ていて、土曜日がさいごになっていますが、週末といえ、上曜日と日曜日のことですから、一週間は月曜日からはじまり、日曜日におわる、とかんがえた方がよいと思います。

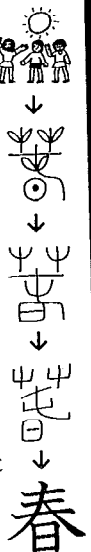
熟語例

- ▽週間 (月曜日からはじまって日曜日におわる、七日で一週する期間のこと。月曜日から日曜日までの七日間のことです。)
- ▽週末 (末 (4年 622) は「ものごとの「おわり」といふいみ。「一週間のおわり」ということで、「土曜日と日曜日」のことをいいます。)
- ▽週刊誌 (毎週一ど、刊行される雑誌のこと。新聞のばあいは「週刊紙」と書きます。)
- ▽毎週 (毎 (2年 228) は「そのたび」「ごと」に」といふいみ。「週ごと」といういみのことばです。)
- ▽週番 (週ごとにこうたいする当番。また、「その週の当番」[しごとのじゆん番に当たった人]のこと。)
- ▽週休 (一週間のうちの休日。例 週休二日制 (毎週二日お休みするという制度。))

春

三年 9
 筆順 三 夫 夫 春
 オン シユン
 クン はる

成り立ち



もとの字は、「艸 (草のもの)」と「日 (漢音はシユン)」と「日」とをくみあわせてつくられた字ですが、いまの字は、「三」と「人」と「日」とでつくられています。

「衆」は「衆 (おおぜいの人)」のもの、の字で、いまの中国のあたらしい字でもあります。木が三つあわされば、たくさん木のある「森」をあらわすように、人が三つあわされば、「おおぜいの人」といういみをあらわすからです。「おおぜいの人がそとに出て、お日さまをあびる「はる」をあらわしたものとかがえられます。

「艸」と「日」との会意・形声字である。屯は、草が芽を出し悩んでいる形。草木が芽を出そうとする季節を表したものである。

使い方

▽むかし、清少納言という貴族の女性が、「春はあけぼの」と、かきのこしました。春は、あけがたがいちばんいい、といういみです。清少納言は、春の山が白く見えはじめ、少し日の光がさしてきて、雲がほそくたなびいている、というけしきが、とてもすきでした。

▽さむい冬がおわって、春がくるとすてきてす。あたたかくなって、あちこちで花がさきます。ちようちよも、まいはじめます。春がくると、みんながよろこんでいるように見えます。

熟語例

- ▽春分 (春の盛りで、昼と夜のながさがおなじになる日)
- ▽新春 (春のはじめ、といういみですが、じつさいは新年のいみにつかわれます。むかしのこよみは、一月一日を春のはじまる日としていたからです。「新春のおよろこびをもうしあげます」などと年賀状に、かいてあります。)
- ▽青春 (人生の春にたとえられる、わかい年ごろのこと。中国では、青は春をあらわす色とされていたので「青春」といいました。)